

第2章

まちづくりの現況・課題

1

甲州市の概況

2

甲州市の特性

3

まちづくりの主要課題

1 甲州市の概況

1-1 地勢

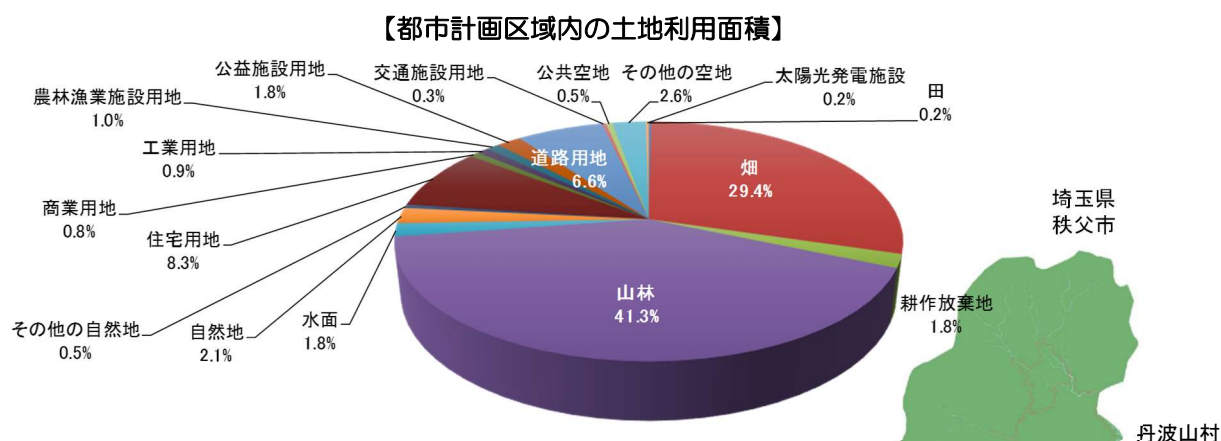
本市は、山梨県の北東部に位置し、東京都より100km圏内に含まれ、周囲を丹波山村、小菅村、大月市、笛吹市、山梨市、埼玉県秩父市と接しています。

総面積は26,411haであり、その約8割を森林が占めています。大菩薩嶺をはじめとする山々をはじめ、清らかな水の流れる溪谷、河川等豊かな自然環境に恵まれています。

また、ぶどうや桃等の果樹園は個性豊かな美しい景観を形成し、市街地と山間部に散在する集落が多様な生活圏を有しています。

1-2 土地利用の状況

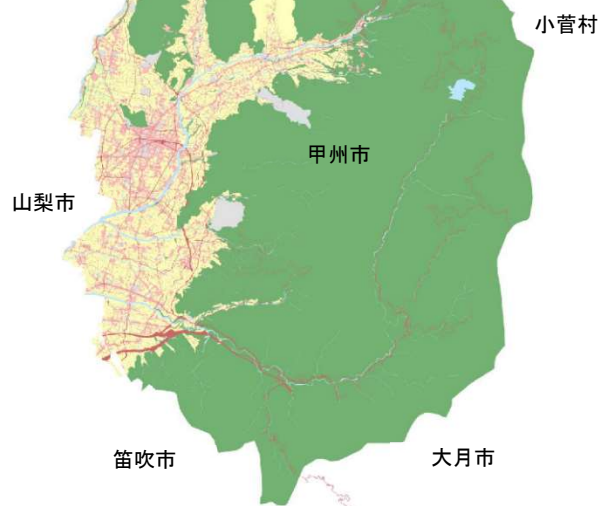
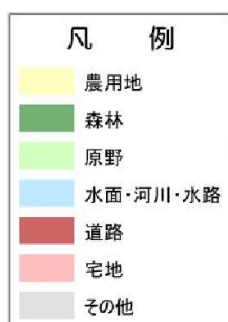
都市計画区域内では約3割が樹園地、約4割が山林であり、農林業的な土地利用を含む自然的土地利用が大半を占めています。



出典：平成29（2017）年度都市計画基礎調査

【市域全域の土地利用状況】

出典：国土利用計画



1-3 人口動態

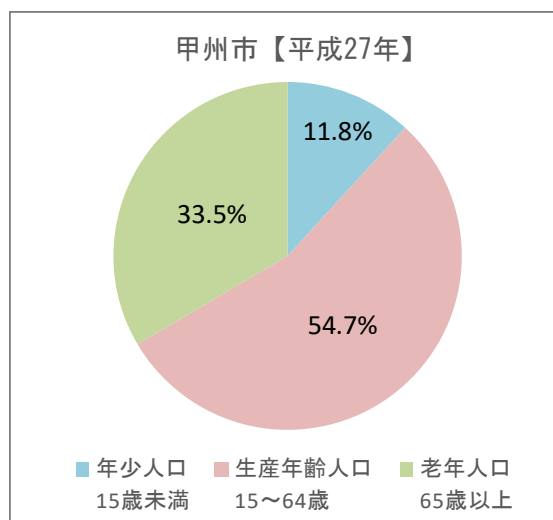
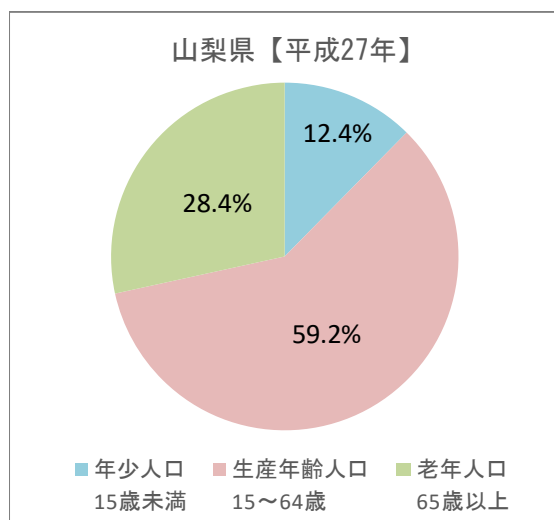
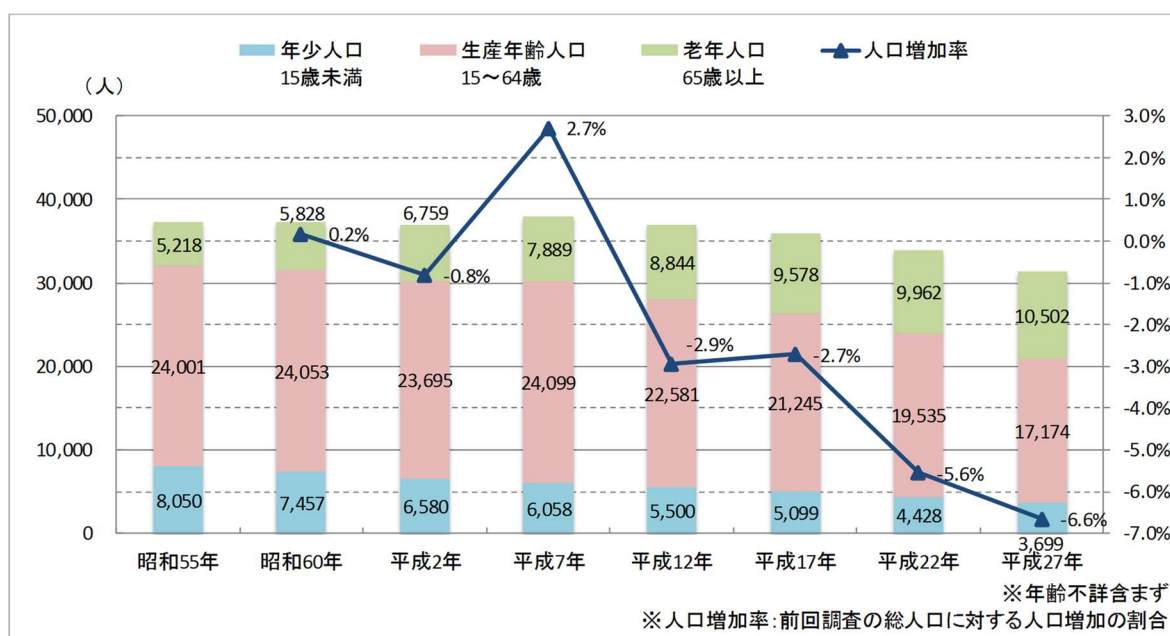
本市の人口は平成27（2015）年国勢調査において31,671人（年齢不詳296人含む）となり、平成7（1995）年以降減少傾向にあります。

年齢別人口の割合（図①）は、平成27（2015）年で年少人口（15歳未満）が11.8%、生産年齢人口（15～64歳）が54.7%、老年人口（65歳以上）が33.5%となっています。同年の県老年人口（平均高齢化率）28.4%を大きく上回っています。

経年変化をみると、年少人口及び生産年齢人口は減少傾向にある一方で、老年人口は増加傾向であり、総人口の約3分の1を占めています。

また、本市の人口密度分布について推計（図②）したところ、全域で人口減少し、特に用途地域における減少が多いことが予想されます（図③）。

【図① 年齢3区分別人口の推移、比率】

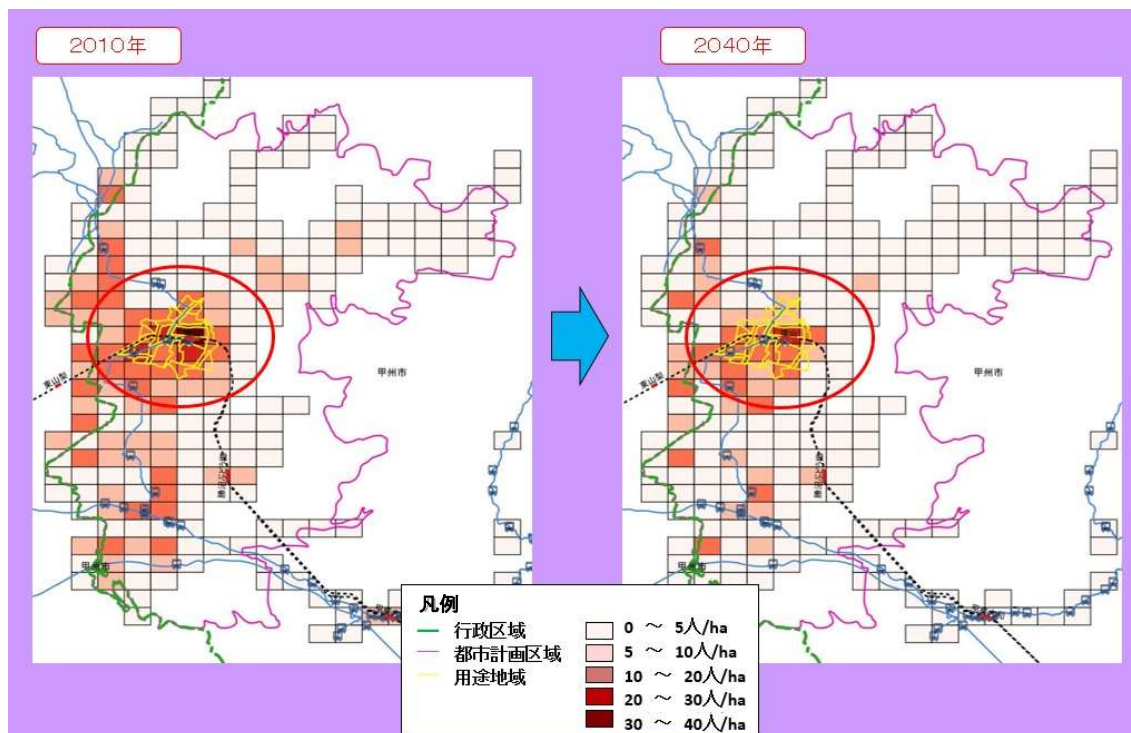


出典：各年国勢調査

第2章 まちづくりの現況・課題

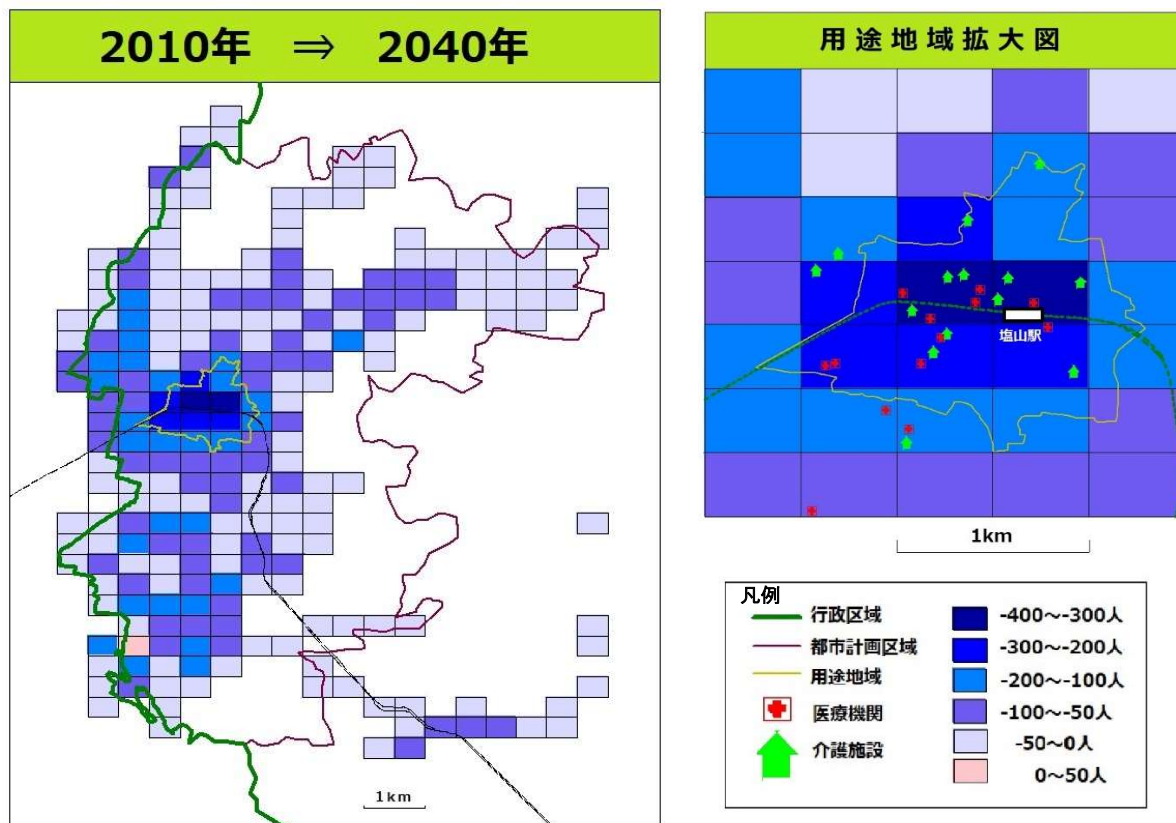
【図② 市内人口密度分布の推計（2010年⇒2040年）】

※500mメッシュ



【図③ 市内人口増減推計（2010年⇒2040年）】

※500mメッシュ



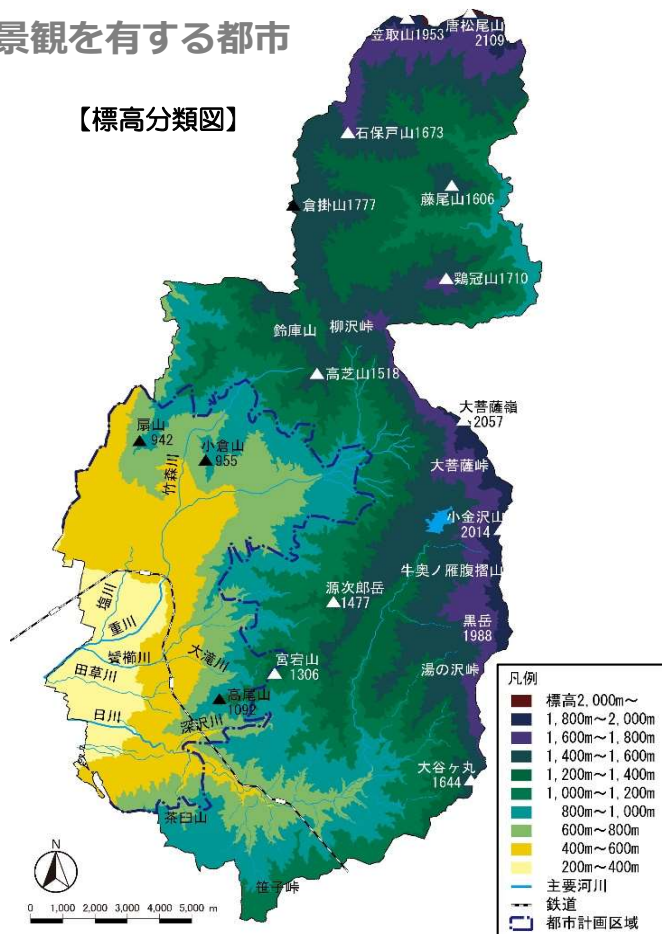
2 甲州市の特性

2-1 豊かな自然環境と美しい果樹景観を有する都市

本市は、北東部に大菩薩連峰をはじめとする秩父山系の山並みが連なり、南は山岳部と平坦部との間に重川、日川及びその支流により形成された複合扇状地が広がり、なだらかな斜面に広がるぶどうや桃などの生産性の高い果樹園地域を形成し、集落地が分散しています。

本市の最低地点である重川と田草川の合流地点の海拔は325m、最高地点である秩父山地の唐松尾山の海拔は2,109mであり、標高差が1,784mある地形となっています。

【標高分類図】



歴史や生活の中で育まれた景観が残されています

- 本市の豊かな自然や主要産業である果樹を中心とした農業が、特色のある景観を形成するとともに、歴史ある寺院やその周辺地域で、長い歴史や文化を感じられる街並みや景観が形成されています。
- 笛吹川、竹森川、塩川、鬢櫛川、田草川等の大小河川により形成された複合扇状地は、塩の山や勝沼ぶどうの丘周辺の丘陵地などとともに地域固有の地形を形成し、個性ある景観を形成しています。

大藤から見る果樹園



果樹園と混在する居住地

- 都市計画区域は、7,308ha（市面積の27.7%）、用途地域は235ha（市面積の0.9%）です。
- 果樹園と自然環境にふれあうことのできる宅地が確保され、果樹園と居住地が混在する都市となっています。近年は、郊外に新たな住宅や都市的な土地利用が進行しています。

ぶどう棚の中に点在する宅地



公園やレクリエーション施設が整備されています

- ・13箇所ある都市公園は、公園長寿命化計画により於曾公園のリニューアルをはじめとした整備を進めています。
- ・レクリエーション施設として、スポーツを楽しむことができる塩山ふれあいの森総合公園や、自然を活かしたキャンプ場等が多数整備されています。

2-2 広域的な交流の玄関口を持つ都市

本市には、J R中央本線の塩山駅、勝沼ぶどう郷駅、甲斐大和駅の3つの駅と中央自動車道勝沼ICがあり、東京方面及び名古屋・大阪方面と容易にアクセスが可能な地域です。国道20号、国道140号、国道411号が結節する本市は、古くから交通の要衝として多くの人々が広域的に往来し、地域産業を支え、今後は中部横断自動車道の全線開通及びリニア中央新幹線の開業により、日本全国との連携強化が期待される地域でもあります。

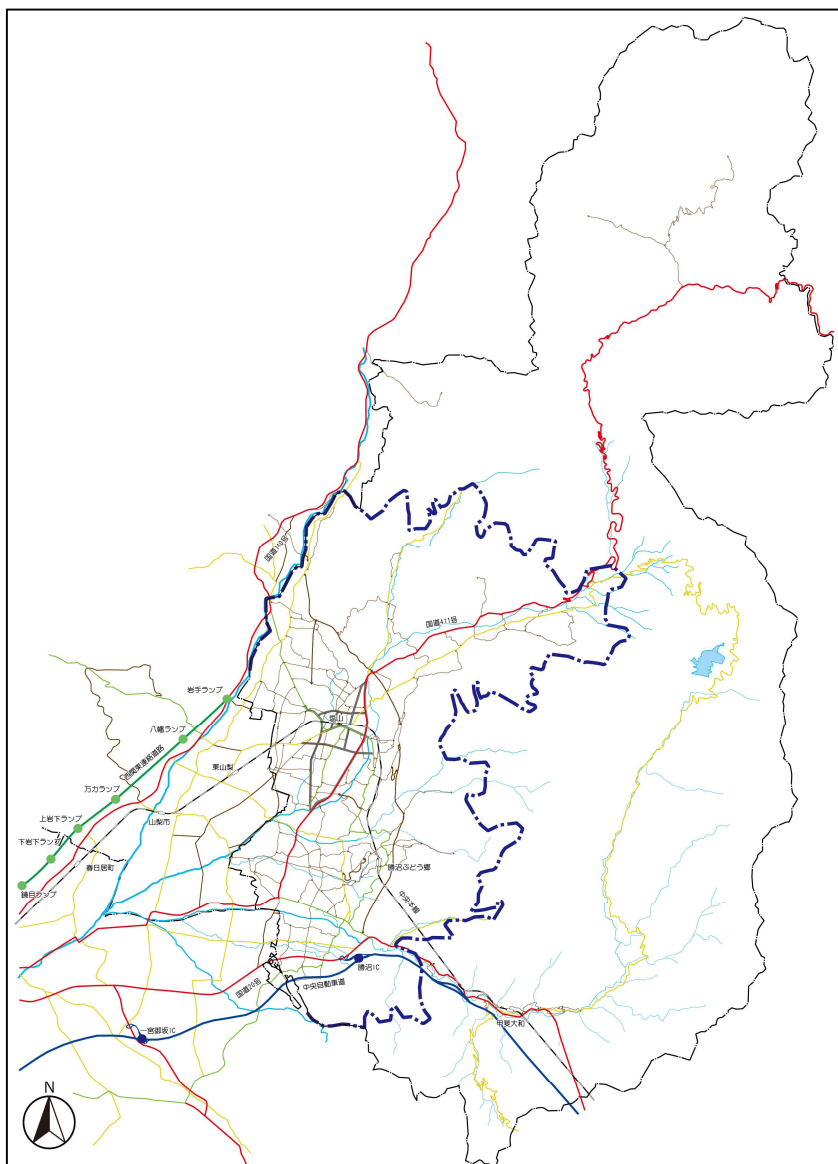
道路ネットワークが形成されています

- ・本市の南部を横断する中央自動車道の勝沼ICは、広域的な移動の拠点となっています。

【道路網状況】

- ・幹線道路等として、国道20号、国道140号、国道411号、西関東連絡道路及び県道15路線があり、市道は1,280路線、延長414,072mとなっています。
- ・都市計画道路は、10路線、延長13,920mが決定されており、整備率は約74%です。

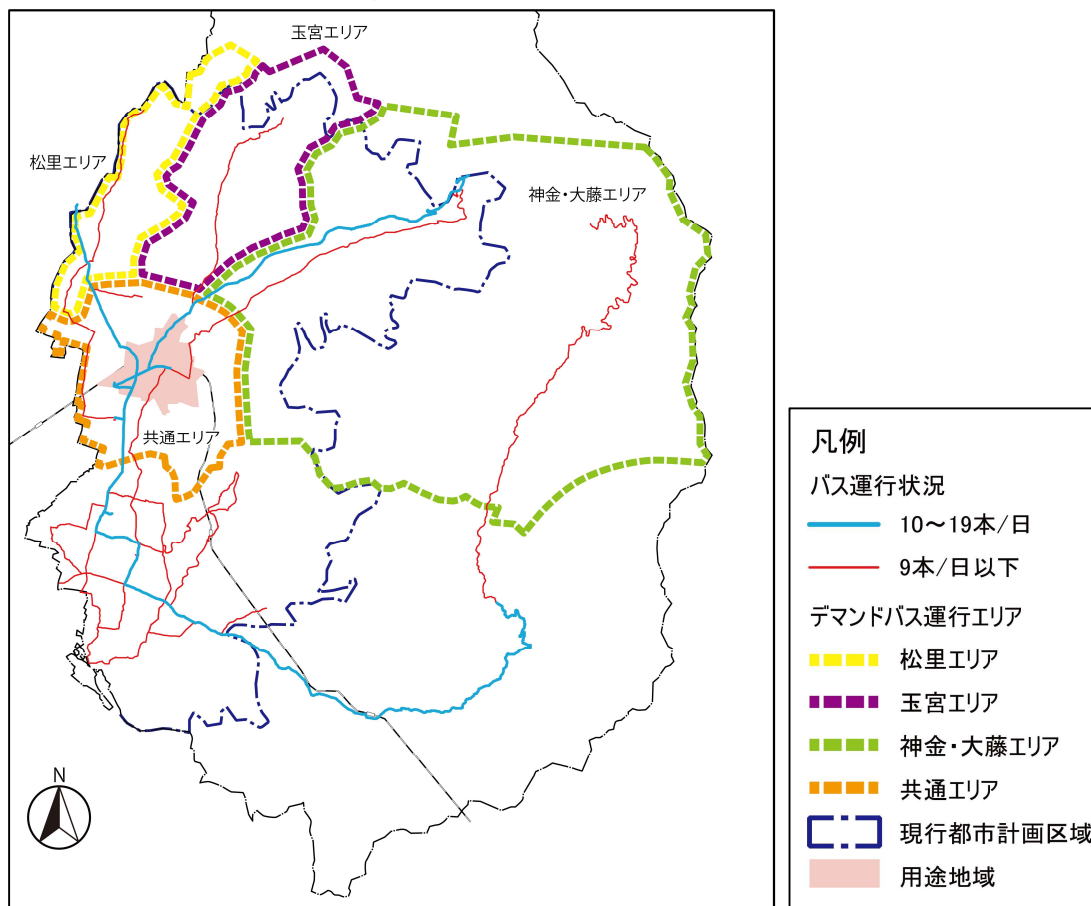
凡例	
	高速道路
	地域高規格道路
	一般国道
	主要地方道
	県道
	市道・農道・その他道路
	都市計画道路



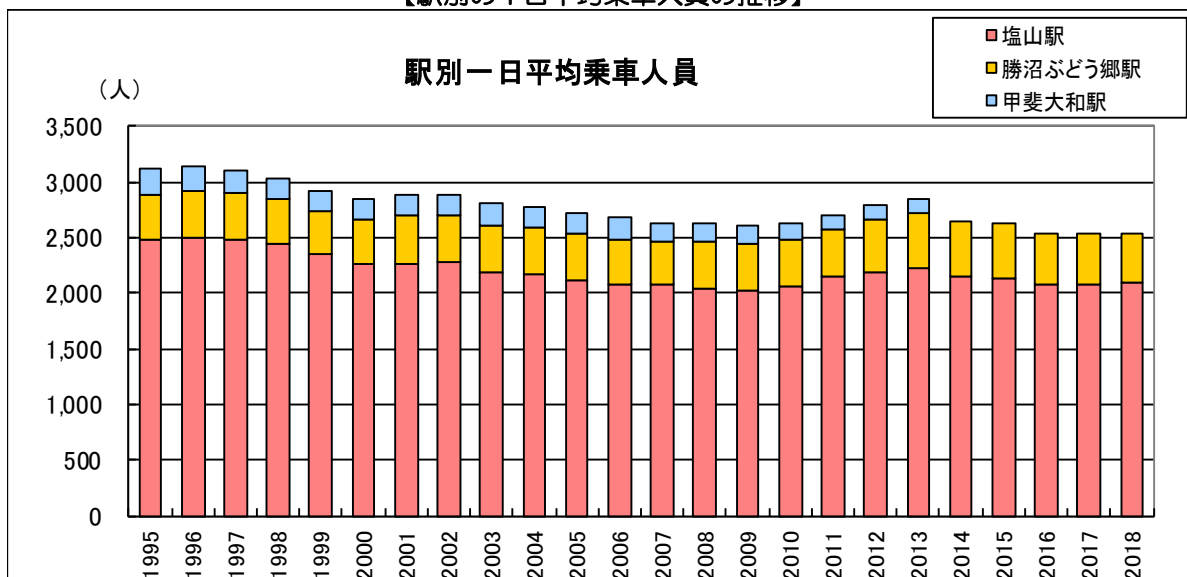
様々な公共交通が整備されています

- ・ J R 中央本線の駅が3つあり、通勤・通学・観光等多くの方が利用しています。
- ・ 市内は、市民バス（7路線）及び民間バス（5路線）が運行しており、塩山駅、甲州市役所、塩山市民病院が運行ルートの中心です。市民バスは69本／日が運行されています。
- ・ デマンドバス（4エリア）は、塩山地域を中心に運行しています。

【バス路線網と運行本数】



【駅別の1日平均乗車人員の推移】



※甲斐大和駅は2014年以降非公表

出典：JR東日本データ

2-3 歴史に彩られた文化資産が数多く存在する都市

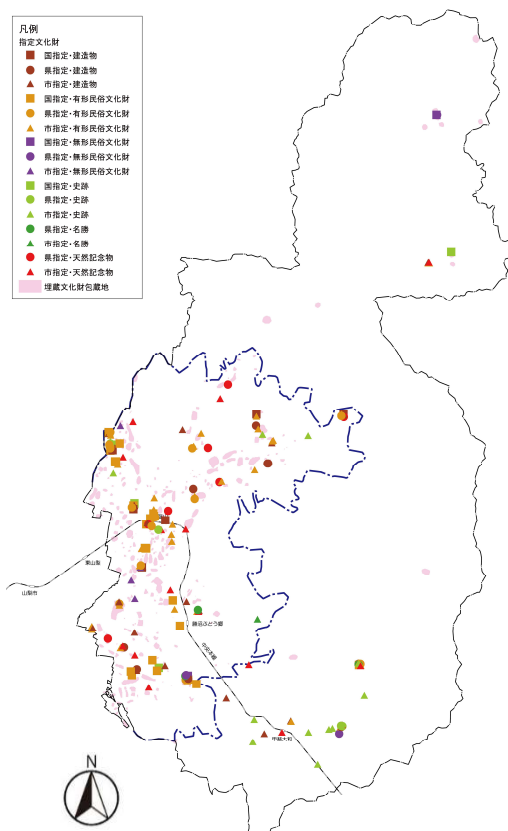
県内にある5つの国宝のうち、大善寺本堂・向嶽寺絹本著色達磨図・菅田天神社小桜韋威鎧兜大袖付の3つを有するとともに、重要文化財を有する寺院や武田氏ゆかりの史跡などの歴史的な文化財が数多く存在します。

また、県内にある4箇所の国指定名勝のうち、恵林寺庭園、向嶽寺庭園の2箇所、5箇所ある県指定名勝のうち、大善寺庭園、三光寺庭園、栖雲寺庭園の3箇所があります。さらに、ワイン醸造発祥等につわる近代産業遺産なども数多く点在し、甲州街道や鎌倉への古道など歴史的な街道により歴史と文化を感じさせる都市でもあります。

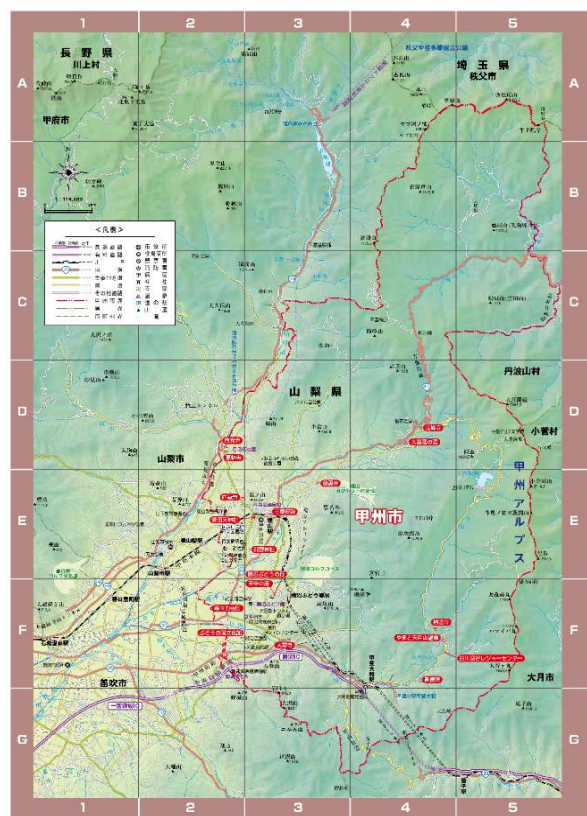
多様な観光資源を有しています

- ・本市は、日本百名山である大菩薩嶺をはじめとする秩父多摩甲斐国立公園エリアを含む山々や温泉、武田氏ゆかりの神社仏閣をはじめ、国内有数の産地であるぶどうや桃、サクランボなどの観光果実園、国産発祥の歴史を有するワインなど、自然・歴史・文化といった多様な観光資源を有しており、四季折々の魅力にあふれた山梨県を代表する観光地のひとつとして知られています。
- ・「勝沼ぶどうの丘」は、地場産業である果樹やワイン等の振興及び歴史文化など地域情報を発信する場所として、今後もリピーターや甲州市ファンを獲得する観光の中心拠点です。

【指定文化財位置】



【主な観光資源】



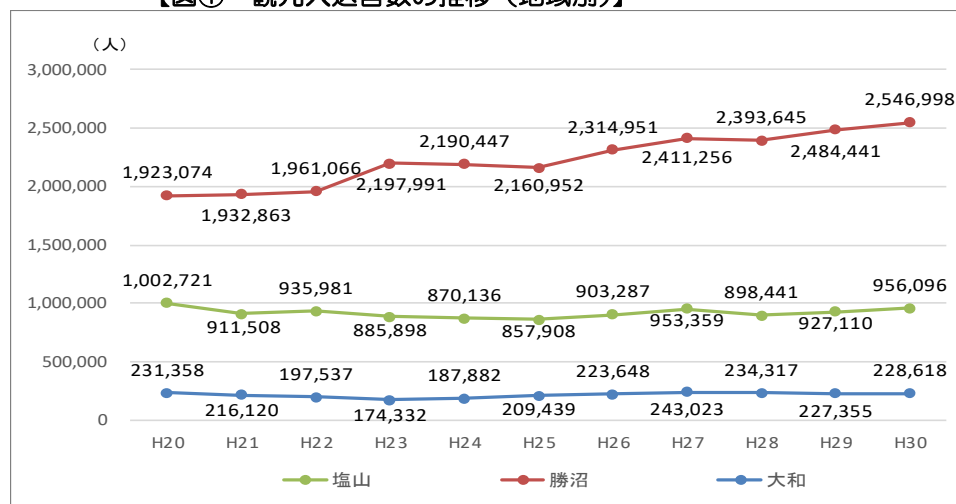
※出典：甲州市観光振興計画（平成27年3月）

出典：平成29(2017)年度都市計画基礎調査

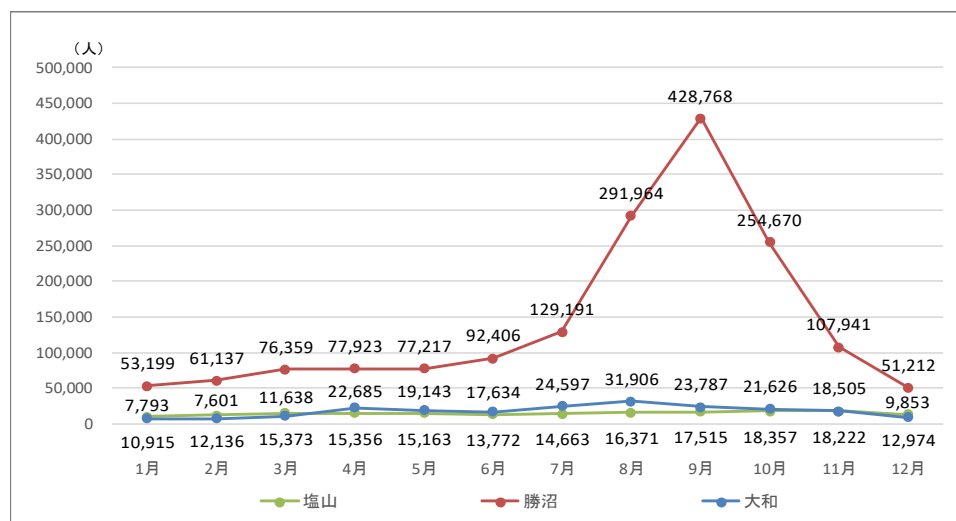
ワインブーム、登山ブームなどにより観光入り込み客数は微増しています

- ・観光入込客数は、塩山地域と大和地域についてはほぼ横ばいですが、勝沼地域については増加傾向にあり、平成30（2018）年には、約250万人の方が訪れました（図1）。
- ・月別の観光入込客数は、勝沼地域における9月の利用状況が顕著で、ひと月で40万人以上の観光客が集中しています。主要な観光資源である果実や関連産業の影響と考えられます（図2）。

【図① 観光入込客数の推移（地域別）】



【図② 平成30（2018）年度月別 観光入込客数（地域別）】

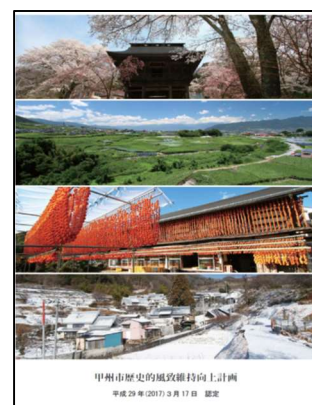


資料：観光商工課

歴史・文化資産を活かしたまちづくりが進められています

- ・「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（通称：歴史まちづくり法）」に基づく「甲州市歴史的風致維持向上計画」は、平成29（2017）年3月に山梨県内で初の認定を受けました。

甲州市歴史的風致維持向上計画



2-4 果樹生産と農業を基盤とした産業が集積する都市

生産性の高いぶどう、桃、柿などの果樹栽培を中心とした農業は、主要産業の一つとなっており、地元のぶどうを使ったワインの品質は国内外において高く評価され、またぶどう・桃等の観光農園、集客、交流施設において果樹、ワイン及び農産品などの物産が販売されるなど、農業を基盤とした産業が集積しています。

その一方で、後継者不足の解消や変化する市場ニーズへの対応等の対策が求められています。

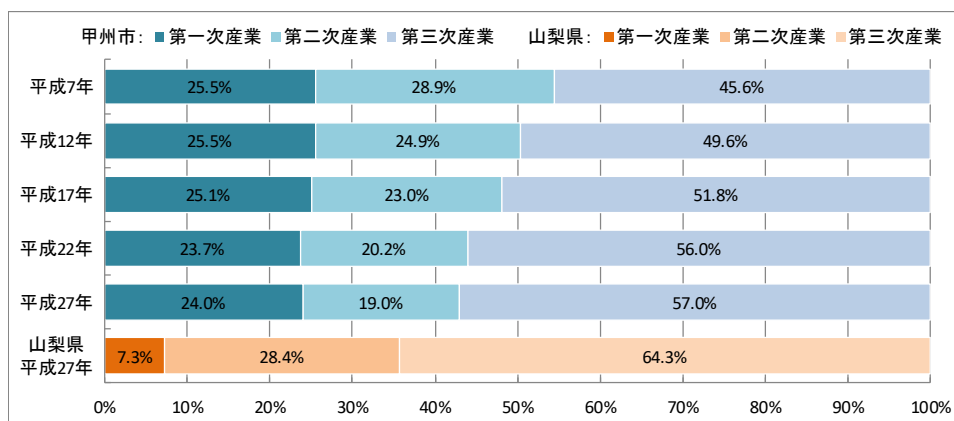
甲州市産ワイン



第一次産業（主に農業）の就業率が高い状況です

- 本市の主要産業は農業です。産業別就業者比率をみると、第一次産業は全体の約4分の1を占め、ほぼ同割合で推移しています。平成27（2015）年の県全体の産業別就業者比率平均と比較すると、本市は第一次産業の比率がかなり高く、3倍以上を示しています。

【産業別就業者比率の推移】

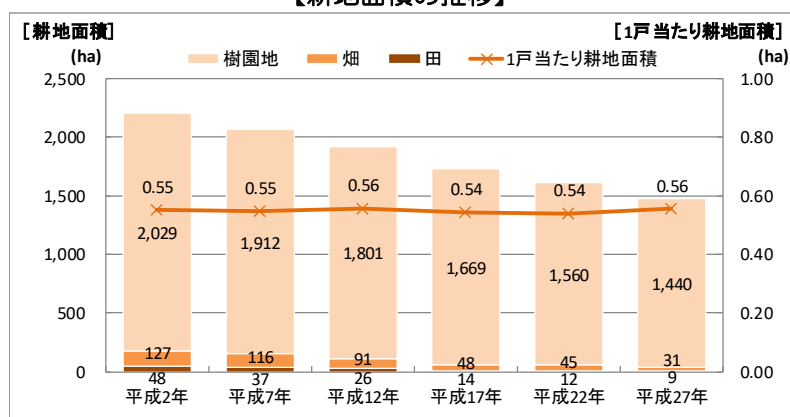


出典：各年国勢調査

1戸当たりの耕地面積は横ばいですが、耕作面積・農家数・農家人口は減少傾向です

- 耕地面積も年々減少傾向にありますが、1戸当たりの耕地面積は横ばいです。本市のほとんどの耕地が樹園地で、果樹栽培が農業の中心となっています。
- 農家数は、減少傾向にあり、兼業農家も減少しています（資料編 P16）。また、農業就業人口も減少傾向にありますが、若手の担い手が育ってきている地域もあります。

【耕地面積の推移】



出典：各年農林業センサス

2-5 災害対策に取り組む都市

自然災害への取り組みが求められています

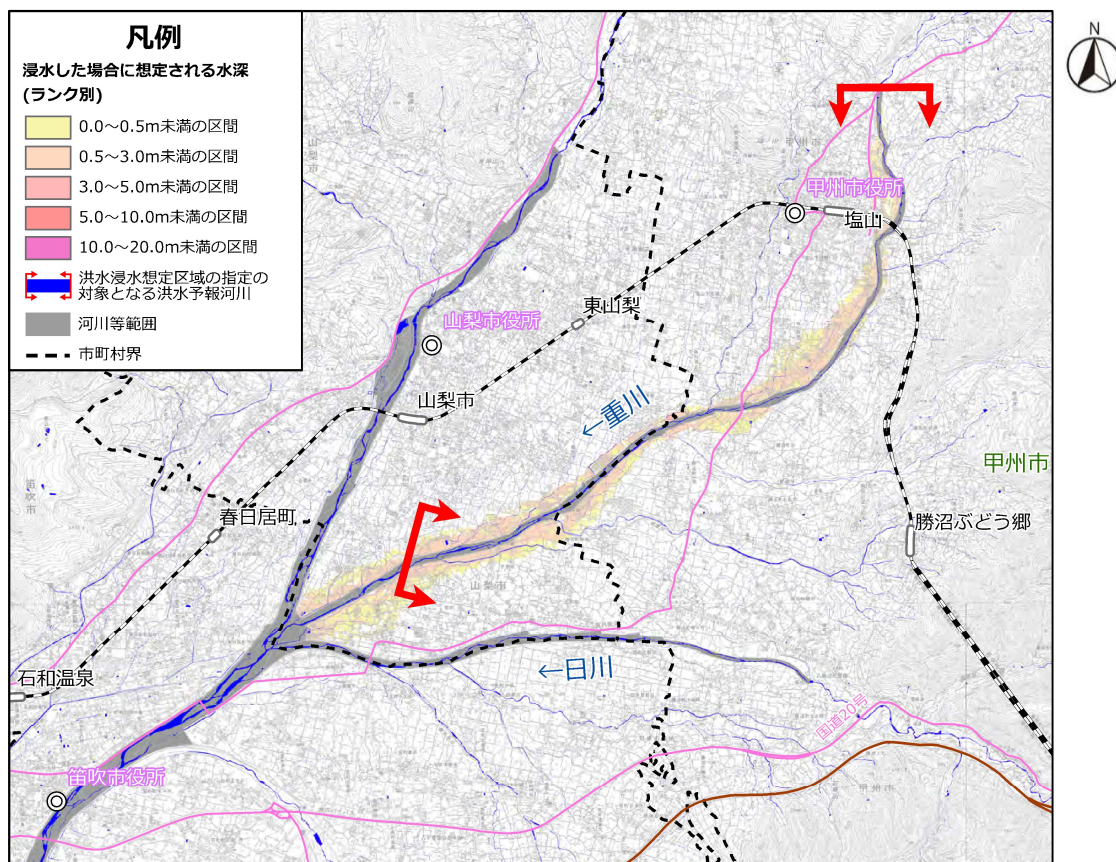
- ・本市は、北部、東部及び南部に位置する山地と南西部に広がる扇状地からなる低地に大別でき、低地と山地の間にある丘陵地帯は複合扇状地です。過去には、集中豪雨、台風等が比較的多く発生し、数年に一度風水害及び山林火災等が発生しています。
- ・自主防災組織活動の推進、防災広場及び災害時に使用できるマンホールトイレ等の整備など各種対応を図っています。全国的に想定外の自然災害が頻発しており、特に気候変動により台風のリスクは年々増大しており、防災に対する意識を高めていく必要があります。

【主な自然災害（平成 17（2005）年 11 月（旧市町村合併）以降） 一覧】

年 月 日		被害状況
平成 19 年 (2007. 7. 16)	地 震	新潟県中越沖地震（M6.8）、甲府で震度 3
平成 19 年 (2007. 9. 6)	豪 雨	台風 9 号による大雨。大菩薩で 530mm の総雨量を記録
平成 20 年 (2008. 6. 14)	地 震	岩手・宮城内陸地震（M7.2）、甲府で震度 2
平成 22 年 (2010. 7. 25)	豪 雨	午後 4 時から 6 時まで、勝沼で 1 時間に 23mm の豪雨
平成 23 年 (2011. 3. 11)	地 震	午後 2 時 46 分東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）（M9.0）甲府、甲州市震度 5 弱、太平洋岸に津波発生津波最大 40.4m 福島第 1 原発事故発生
平成 23 年 (2011. 3. 15)	地 震	静岡県東部地震（M6.4）、甲府で震度 4
平成 26 年 (2014. 2. 14-15)	豪 雪	甲府地方気象台観測史上最大の積雪量を記録。114cm（甲府市）143cm（河口湖）を記録。一時 13 市町村 1,800 世帯が孤立
令和元年 (2019. 10. 12-13)	豪 雨	令和元年東日本台風による大雨。東日本地域において記録的な豪雨災害。大菩薩で 656mm を超える総雨量を記録

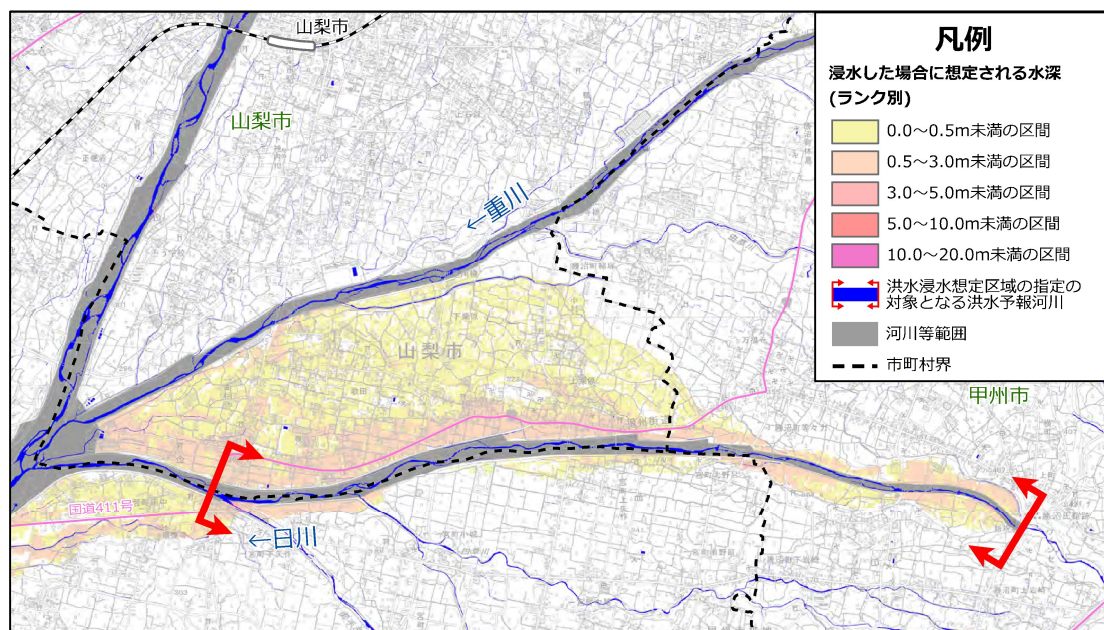
第2章 まちづくりの現況・課題

【富士川水系重川 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）】



出典：山梨県 HP

【富士川水系日川 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）】



出典：山梨県 HP

3 まちづくりの主要課題

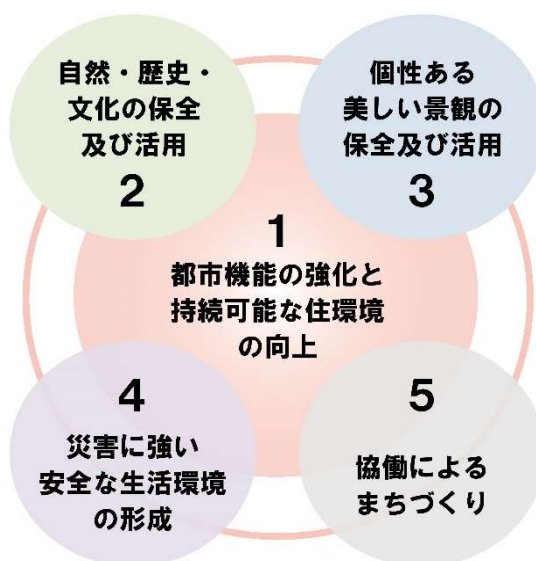
現状や社会情勢などを踏まえると、本市のまちづくりは大きく 5 つの課題への対応が求められています。

本市のまちづくりを進めるにあたって、個性ある「自然・歴史・文化」「景観」は重要な要素となります。また、「安全」「協働によるまちづくり」は豊かな生活を営むために欠かせないものです。

さらに、その全てを含む最も基本的な要素が「都市機能・住環境」となります。

「都市機能・住環境」と重なるように他の 4 つの課題を展開し、まちづくりの主要課題を示します。

■5つの主要課題イメージ



主要課題1：都市機能の強化と持続可能な住環境の向上

各地域において都市機能が集積している集落地を「コンパクト・プラス・ネットワーク」の核となる拠点として設定し、都市機能を集約、向上及び保全を行うことが求められています。

塩山駅、勝沼ぶどう郷駅、甲斐大和駅などの交通結節点及び各地域の拠点における特性を活かしたコンパクトなまちづくりを進め、地域内外の交流の活性化及び連携を促進するためのネットワークの強化が求められています。

多様な世代が暮らしやすく、これからも住み続けたいと思えるまちを実現させるため、市役所、塩山市民病院等の主要施設や商業施設等への交通や買い物等の利便性等の向上を進め、適切な土地利用の誘導と都市機能の集約等が求められています。

循環型社会に向けた環境保全の取り組みを進め、持続可能なまちづくりを形成していくことが求められています。

主要課題2：自然・歴史・文化の保全及び活用

本市は山地、溪谷、河川といった豊かな自然に恵まれているとともに、歴史を感じられる街道や史跡、貴重な文化財、ワイン醸造発祥にまつわる近代産業遺産等の多様な資源が数多く存在しています。

長い年月の中で育んできた地域特有の豊かな自然、歴史・文化資産を、次の世代に引き継いでいくこと、さらに、これらを有効的に活用し、賑わいの創出につなげることが求められています。

主要課題 3：個性ある美しい景観の保全及び活用

美しい果樹園景観や農村集落景観は、先人たちが地形等を活かした生産性の高い農業を営んだことにより作られ、本市を訪れる人にとっても魅力的な要素の 1 つとなっています。

この果樹園景観や農村集落景観は、大切な財産であり維持・保全を図り、更なる利活用を図っていくことが求められています。

景観と産業は密接に関わっており、景観を維持・保全していくことは、果樹園や農村集落を維持・保全していくことにも繋がります。美しい景観を維持していくためには、労働力の確保、果樹生産者の後継者不足等に対応していくことも求められています。

主要課題 4：災害に強い安全な生活環境の形成

市全域の約 8 割を森林が占めていることから、大規模な異常気象が発生した際には、大きな被害が生じやすい地形でもあります。近年は災害による人的被害は発生していませんが、対応の遅れは被害が深刻化することから、防災への意識向上が求められます。

さらに、全国的に自然災害等が頻発しており、将来大規模災害が発生する可能性も十分考えられ、防災だけでなく、減災の視点を持ったまちづくりの推進が求められています。

市民の安全を守るための都市基盤の適切な更新・改善による安全性の高い環境づくり、自然災害等へ対応するハード及びソフト面での様々な視点からの取り組みが求められています。

主要課題 5：協働によるまちづくり

全国的にも、例外なく本市においても、人口減少が進み、少子・高齢化による地域コミュニティ機能の低下が懸念され、多様化する行政ニーズに対応することが難しくなっています。

まちづくりをより効果的に進めるためには、地域や人々のつながりを強化し、あらゆる場面において行政と市民、企業、市民同士、行政内部等における各連携の促進を図り、自立したまちの維持、運営に向けた協働によるまちづくりの推進が求められています。

また、持続可能なまちづくりを進めていくためには、まちづくりに関わる人材の育成や少子・高齢化に伴う社会環境の変化に沿った環境整備、さらには市民活動の活性化が求められています。